

令和2年度

学校法人爽青会

ルネサンス デザイン・美容専門学校

【自己点検・評価および学校関係者評価報告書】

令和3年3月

学校法人爽青会

ルネサンス デザイン・美容専門学校

自己点検・評価委員会／学校関係者評価委員会

1 本校の概況

1. 設置者 学校法人 爽青会 理事長 中野勘次郎
2. 学校名 ルネサンス デザイン・美容専門学校
3. 校長名 中野勘次郎
4. 認可 平成7年3月20日
5. 開校 平成7年4月1日
6. 所在地 〒430-0943 静岡県浜松市中区北田町 130-12 (TEL) 053-452-2121
7. 課程 文化・教養専門課程／衛生専門課程
8. 学校の沿革
 - 平成7年3月 専修学校制度に基づき、専修学校の認可を受ける
 - 平成7年4月 専門学校ルネサンス・アカデミー オブ デザイン開設
 - 平成17年4月 専門学校ルネサンス アカデミーに校名変更
総合デザイン学部・動物関係学部を開設
 - 平成20年3月 学校法人爽青会 認可
 - 平成21年4月 専門学校ルネサンス・デザイン アカデミーに校名変更
 - 平成26年3月 設置4学科で職業実践専門課程認定
 - 平成27年4月 イラストレーション科、広告・写真・Web デザイン科で3年制課程開始
 - 平成28年4月 衛生専門課程 美容師科開設
 - 令和2年4月 ルネサンス デザイン・美容専門学校に校名変更
9. 校訓
Every dog has his day. (みんな輝く学校になる)
10. 教育目標
日本人の徳性を活かし、新旧の美意識から学び、日本流・新デザインで世界の夢をカタチにする
重点項目
 - ・新型コロナウイルス感染症への対応
 - ・すべての評価制度の見直し
 - ・令和3年度の業績V字回復
 - ・【D・B共通】変化に対応する徹底挑戦
 - ・【D・B共通】RAD/RABブランドの確立
 - ・【Design系】浜松で学び、大都市で活躍できる学校を周知
 - ・【Beauty系】地元高校から選ばれる学校としての周知
11. 設置学科
 - イラストレーション科 (昼3年 男女 定員40名)
 - 広告・写真・Web デザイン科 (昼3年 男女 定員40名)
 - ブライダル・トータルビューティー科 (昼2年 男女 定員40名)
 - 美容師科 (昼2年 男女 定員30名)
 - マスター科 (昼1年 男女 定員5名)
12. 学生数 (令和3年2月1日現在) 147名

13. 教職員数（令和3年2月1日現在） 17名
14. 学校建物面積 2115 m²

2 自己点検・自己評価委員会

1) 委員名簿

1. 学校長 中野勘次郎（委員長）
2. 本部長 中野祐子
3. 教務部 前田健一
4. 教務部 竹田侑里
5. 教務部 大城陽功
6. 教務部 杉浦英樹
7. 事務局 林千洋

監査委員

1. 理事長代理 中野良太
2. 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー 事務局 鈴木博昭

2) 自己点検・自己評価制作の流れおよび委員会開催記録

- 令和3年1月8日 自己点検・評価委員会 第1回会議
- 令和3年1月18日 自己点検・評価委員会 第2回会議
- 令和3年1月25日 自己点検・評価委員会 内部監査
- 令和3年1月27日 設置者への報告
- 令和3年2月12日 学校関係者評価委員会
- 令和3年3月6日 学校法人爽青会理事会報告
- 令和3年3月10日 第1回講師会にて共有
- 平成3年3月31日 ホームページにて外部への公開

3 学校関係者評価委員会

1) 委員名簿

1. 鳥居 春仁 常葉大学浜松基礎教育センター長
2. 上野 弘道 公益社団法人日本動物病院協会 専務理事／日本動物医療センター院長
3. 安武 伸朗 常葉大学造形学部長/キャリアセンター長
4. 平井 伸幸 株式会社レボル代表取締役社長
5. 坂元 祥彦 一般財団法人 動物看護師統一認定機構 理事

2) 開催日・場所

- 令和3年2月12日 学校法人爽青会 本部館 201 教室にて開催

4.評価一覧【適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1】

1 教育理念・目標		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
1	1	理念・目的・育人人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	理念・目的・育人人材像は毎年検討・更新され、教職員には1月の原点確認研修にて、学生には4～5月のオリエンテーションにて学生必携を用いて周知している。	4	不易の取り組みとして高く評価出来る(安武) Webの活用、週1の登校日で帰属意識を高めた(平井)
1	2	学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか	4	学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、またインターンシップにおける職員の企業訪問(今年はコロナの影響で電話・オンラインも活用)を通じて、業界の動向・ニーズを調査している。	4	報告内容の共有のしくみについて理解できた。さらに様々な具体的なカリキュラム改善に活用されているものと推察できる(安武) コロナによって業界動向も大きく変化した期待される人材像にも変化が起きた。(平井)
1	3	各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者とそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか)	4	教育課程編成委員会を通じて得た業界ニーズを踏まえ、各学科の教育目標・育人人材像を「mission・vision・5つの約束」の形で定めている。	4	不易の取り組みとして高く評価出来る(安武)
1	4	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4	3学科それぞれの教育目標に向け、指導講師・学内設備・国内外の研修システムといった特色を定め、学校案内やWebサイトを通じて発信している。	4	不易の取り組みとして高く評価出来る(安武) 学校案内から与える印象が良い(上野) Webサイトの有効活用をしてほしい(鳥居)
1	5	理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	学生には学生必携を用いて、入学検討時の保護者にはオープンキャンパスの保護者説明会にて、在校生保護者には就職保護者会にて、それぞれ周知している。今年度はオンラインを活用したりリモートによる説明会も多く実施された。	4	オンライン開催など(資料含め)取り組みの継続性が評価できる(安武) 学生、保護者に、コロナ禍で出来るやり方で周知された。(平井) オンラインの活用等1つ1つのことが着実に実行されていることが分かります(鳥居)

① 課題

今年度のコロナ禍においては計画や方法の変更により教育は遂行できたが、その他の緊急事態発生に対する体制には不足がある。

② 今後の改善方策

緊急事態発生の際は、危機対策室を設置することとし、次年度は危機管理規程の作成に着手する。

③ 特記事項

特になし。

2 学校運営		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
2	1	専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているか	4	職業実践専門課程認定学科を対象としたフォローアップへの対応、業界との連携、ヒアリングを行いカリキュラムの見直しを継続するなど、認定要件に沿った運営をしている。またコロナ禍に於いても安全を確保しつつ対面での授業形式を採ってきた。	4	
2	2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	寄付行為・就業規則内に意志決定システムは明文化されている。また理事会での承認、学科・主任会議や教務部会といった目的に合わせた検討・意志決定が行われ、業務分掌の形で一覧化し有効に機能している。	4	
2	3	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	教務に於いては2-2と同様。財務は経理規定で明文化されており法人本部を中心に適切に運用されている。	4	
2	4	目的等に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画は、学校・学科ごとの検討事項がまとめられ、理事会・評議員会での承認を経て事業計画として策定されている。	4	
2	5	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	運営方針は毎年結果の振り返り・見直し・改善を行い、校長の承認を経て運営方針を策定している。	4	
2	6	人事、給与に関する制度は整備されているか	4	働き方改革に対応した就業規則の改定および人事制度の見直しを行い、業務効率化による勤務時間の削減・振替休日の完全取得など、確実な成果となって表れている。また副業に関する規定を新設し、2021年度から運用する。	4	副業について変化に敏感に対応されている御校らしい素晴らしい取り組みだと思う(上野)
3	7	専任教員は適正に配置されているか(専任教員や非常勤講師の過当たりの担当コマ数などの講義・実習負担は妥当であるか)	4	各授業の到達目標に合わせ、教員の経歴・能力と照らし合わせて適正に配置している。また授業アンケートによる学生からの評価も参考にしている。	4	
2	8	教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	4	年2回の講師会にて学科ごとに教育方針・学生の状況などについて情報交換の場を設けている。毎授業ごと授業報告書にてリアルタイムな共有を図っている。	4	コロナ禍などの通常とは異なる教育活動において、(教育の質保証の観点で)非常勤講師との連携が大変重要になると思う(安武)
2	9	業界や地域社会等からの意見の収集・分析・応答の仕組みができていますか(苦情及び要請への対応を含む)	4	寄せられた意見は、その内容により部門長・学科長、あるいは主任会議によって対応が協議され、学校長・教務部長の判断により実施される。今年は地域高校からの広報支援要請があり、2件の対応を行った。	4	資料に基づいて評価できる(安武)
2	10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	職業実践専門課程および就学支援新制度の情報公開要件に基づき、公式ホームページにて公開している。また今年はSNSの活用による、リアルタイムな情報発信の効果が表れた年でもあった。	4	Webの内容が適切と判断できる(安武)
2	11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学内グループウェアの活用ならびにサーバ管理システムにより、業務効率化が図られている。2020年度は各種アンケートを基本的にオンラインへ移行し、集計も完全自動化されている。	4	新しい取り組みが評価できる(安武) 時代にあわせて適格に変化をされていると思う(上野) オンライン活用への迅速な対応ができ効率的にもなった(平井) 今後も力を入れて行って欲しい(鳥居)
2	12	教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか(モニタリング及び評価の結果を考慮して、学習サービスの改善・変更を実施しているか)	4	資料にて集約される評価結果を基に、月に1回の経営会議内において学校運営の仕組みや手法の適切性を協議し、必要な改善を継続的に行っている。また3~5月は臨時幹部会議を行い、コロナ対応を迅速に協議し、教員・学生の混乱を最小限に抑えた。	4	コロナ対応を迅速に行われていたとのこと、良い対応と思う(上野) 正解がない中で、安全と成果の両立をはかる創造と取り組みがなされた(平井)

2	13	学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか	4	学生とは定期的に、保護者とは保護者会・進級前説明会等で面談を行い、要請の集約・解決への取り組みを行っている。今年は学内でのコロナ発生時のフローチャートを作成し、迅速な対応が出来る様に準備を行った。	4	フローチャート作成と感染者なしは適切な対応のおかげと思う(上野) リスクマネジメントができた。状況変化の中で適時対応ができた(平井)
2	14	学生及び保護者等が不満を抱いている場合や、学校側と意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか	4	相談受付方法は学生必携に明記し、ハラスメントなど第三者の窓口も含め相談の受付を案内している。	4	

① 課題

コロナ対応は、学内消毒・換気のみならずインターンシップや就職活動などの移動を含め、引き続き安全な学校運営は課題である。

② 今後の改善方策

今年度の対応策を、今後も状況に応じて適宜精査を行う。

③ 特記事項

特になし。

3 教育活動		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
3	1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	各授業の到達レベルと学習時間は学生必携・シラバスにて明記し、授業アンケートの結果により毎年内容の改善を行っている。	4	
3	2	学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか	4	出願書類にて入学要件を満たしているか確認を行い、入試面接にて要件の詳細やスキルを確認し合否の確認を行っている。今年度はリモート授業実施に先立ち、自宅のネット環境について事前アンケートを実施した。	4	適切対応されていると思う(上野)
3	3	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	教育課程編成委員会での議論を通じ、実践的な職業教育に向けたカリキュラム・教育方法の工夫を行っている。今年度はオンラインを通じた教育による効率化や新たな成果が見られた。	4	現実的な業務として最善の工夫が行われていると判断した(安武)
3	4	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	教育理念に沿った教育課程の編成や実施方法が策定され共有されている。今年度はコロナへの対応として、随時年間スケジュールが改定される年となった。	4	
3	5	少なくとも年1回、カリキュラム、学習教材及びアセスメント教材の見直しを行っているか	4	授業アンケートの結果、教育課程編成委員会でのヒアリングなどを参考に、カリキュラム検討会議にて学科ごと教材を含め見直しを行っている。	4	
3	6	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか(発行する修了証明書の種類及び内容)	4	カリキュラムの相関図にて資格取得の体系的な位置づけを行い、常勤・非常勤講師間での定期的な検討会議を通じて指導方法の共有を行っている。	4	
3	7	講義および実習に関するシラバスは作成されているか(学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか)	4	各学科のカリキュラムは相関関係を意識し作成され、その上で講義および実習のシラバスが作成・公開されている。	4	
3	8	シラバス(作成されていればコマシラバス)には到達目標が記載されているか(Can-Doを意識した到達目標の明示)	4	シラバスにはCan-Doを意識した到達目標が示され、学生に配布されている。	4	到達目標の言い回しが「～できる」と具体的であり、かつ明快な点が評価できる(安武)
3	9	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか	4	インターンシップに当たって企業と目的・評価方法等を説明し、その内容に関して事前に協議を行っている。評価は企業の実習担当者が行い、その後の学生へのフィードバック、指導に活用されている。	4	
3	10	学習サービスの設計時に、予定しているモニタリング及び評価の手順を明確にしているか	4	学生必携の評価規定および評価方法にて、学生にその手順を明示している。またシラバスにて各科目ごとの試験方法を記載している。	4	
3	11	シラバスあるいは講義要項(作成されていればコマシラバス)などが事前に学生に配布され、授業で有効活用されているか(あるいはホームページなどで公開されているか)	4	講義要項は学生必携にて年度開始時に配布・解説がされ、シラバスは授業開始時に学生へ配布・説明が行われている。	4	
3	12	実技・実習が講義と連動していたり、講師と学習者の比率をカリキュラム設計時に考慮するなど、効果的学習に配慮されているか	4	実習・講義の連動性が見えるカリキュラム相関図を作成している。また受講学生の多い授業に関しては、複数名での指導を行っている。	4	

3	13	カリキュラムの作成・見直し等に関し、定期的に外部者(企業・団体、学会・協会、関連する業界団体等)の評価や意見を取り入れているか(ニーズ分析の結果を利害関係者間で共有しているか)	4	年2回行われる教育課程編成委員会にて、業界ニーズのヒアリングおよびカリキュラム案に対する評価・意見聴取を求めカリキュラムの作成・見直しを行っている。	4	
3	14	実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備され、公表されているか	3	学生必携内で履修をする上での規定やマニュアルを示し、オリエンテーションにて説明している。職業倫理については規定がなく、2021年度に検討を行う。	3	点校としての評価は、3と考えられるが、改善が計画されており期待できる(安武) コロナで衛生管理の理解と本気度が試された+SNSのルールが必要になっている(平井)
3	15	学生や保護者に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4	学生必携にて基準・要件は示され、進級・卒業要件や成績表の見方については保護者会にて保護者へ説明している。	4	
3	16	職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか(スポンサーの学習サービスに対する満足度の分析、並びにスポンサーからの学習サービスの質向上に関するフィードバック及び提案の分析を含む)	4	外部委員からの意見交換は計画的に行なわれており、議事録として保管されている。また頂いた意見は随時反映、あるいは次年度教育計画へと反映させている。	4	現実的な業務として最善の工夫が行われていると判断した(安武)
3	17	アセスメントの結果は、公平性、透明性及び守秘義務の原則に鑑みて、確立された権限又は正当な承諾を得た者のみ閲覧可能とされているか(閲覧制限)	4	個人情報を含むサーバーへのアクセスには権限を設けている。また、個人情報の取り扱いは就業規則・講師会資料にて周知している。	4	
3	18	カリキュラム設計及び開発の経験を有している、もしくは訓練を受けたファシリテーターなどが、カリキュラムの設計及び開発を担当しているか	4	教育課程編成委員会での意見聴取も踏まえ、各学科長を中心としたカリキュラム検討会議に教務部長も参加し設計や開発を行っている。	4	現実的な業務として最善の工夫が行われていると判断した(安武)
3	19	学習教材は、学習内容の実際の有用性を考慮した実践的かつ最新のものであり、社会的ニーズ、文化的ニーズ及び学習者の背景を考慮して選択されているか	4	教科書や教材は、研修・セミナーからの情報、授業を担当する講師の意見などを踏まえ、適切に選択している。	4	現実的な業務として最善の工夫が行われていると判断した(安武)
3	20	カリキュラムを設計又は見直す際に、過去に提供した類似の学習サービスに関する評価の結果を考慮しているか	4	カリキュラムは、学生を対象とした授業アンケート・学校満足調査を考慮して設計されている。	4	現実的な業務として最善の工夫が行われていると判断した(安武) アンケートをデジタル化してメリットが出ている(平井)
3	21	学内で使用又は開発した学習リソース(資源)の出典及び著作権について、適正に処理できているか	3	学内にいる著作権検定指導職員により、学内への啓蒙は行われているが、マニュアル化はされていない。	3	点校としての評価は、3と考えられるが、改善が計画されており期待できる(安武) 今後全体への改善が必要(平井)

① 課題

職業倫理規程を一部学科で明示する必要がある。また学習リソースの出典及び著作権に関する職員へのマニュアルが未作成である。

② 今後の改善方策

2021年度に職業倫理規程の検討を行う。著作権に関するマニュアル(ガイドライン)の策定は2021年3月までに行う。

③ 特記事項

2021年度入学生より、美容師科に於いて学習への取り組み姿勢・基礎学力の把握・傾向の可視化を行う入学前教材を導入した。

4 学修成果		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
4	1	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか(測定する知識、スキル及び能力、測定の基準、アセスメントの方法は明確か)	4	学生必携にて卒業条件・進級条件を定め学生に周知している。また卒業進級判定会議にて条件に従った卒業進級判定を認定している。測定する知識等・判定基準・試験方法は学生必携およびシラバスにて明示している。	4	
4	2	就職率の向上が図られているか(卒業生の就職率)	4	就職率は毎年100%を維持している。今年はコロナの影響により採用動向が変化し、担任以外にも学生のタイプ別に就職課・教務部長が個別指導を行っている。	4	例年同様に評価できる(明文化されない人的な工夫や仕組みの存在が見受けられる)(安武) 100%は素晴らしい(上野)
4	3	目標とする資格試験等への合格率はどうか	4	全学科で概ね昨年度より高い検定合格率を達成している。また美容師国家試験(2020年3月)では、受験者全員が合格となった。	4	全員合格は素晴らしい(上野)
4	4	退学率の低減が図られているか(受講登録、出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか)	4	到達目標や学習内容、在学中に掛かる学費など、オープンキャンパスにて情報提供を行い、入試に於いても退学の可能性がある受験者を見極める施策を行っている。また退学者はその経緯を記録し、分析を行っている。	4	退学率5.690という実績を考えると、低減の取り組みが機能していると判断した(安武) 夏休みでの意欲が落ちていることを明らかにし、7月の対応で結果を出されていることは素晴らしい(上野) 早い段階で情報収集することで対策も早めに行えた(平井)
4	5	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか)	4	企業への訪問活動を通じた状況把握、卒業制作展への出展案内やfacebookの情報発信を通じた求人情報発信など、卒業生とのコネクションを多く持っている。	4	高く評価できる(安武)
4	6	学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか	4	教職員の評価方法および手段は、就業規則および人事制度マニュアルで明示されている。カリキュラムは学生からの授業アンケートを経て、教育課程編成委員会にて評価されている。	4	3-5、3-16等で、学内と学外(外部有識者)の評価を組み合わせ学修成果を計画していると判断した(安武)
4	7	要請があった場合には、学習者又はスポンサーに対して、a) 学習サービスの名称及び目的やb) 指導時間数、c) 達成度などの情報を含む修了証明書を提供しているか	4	年に2回、各家庭に対して成績書を発送している。また要請に応じ、社会的通用性をもった成績証明書を発行している。	4	
4	8	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	インターンシップや求人開拓の企業訪問を通じて、そこで就業している卒業生の状況を収集しているが、コロナの影響により企業訪問数は減少し、校友会などの卒業生組織との連携も取れない状況にある。	3.4	改善活用の実例は減少したと思われるが、活用の仕組み自体は変わらないと考え評価した(安武) 今後もオンラインの交流が増えていくその対策が必要に(平井) 仕方ない状況何とかしようと努力されている状況は分かる(鳥居)
4	9	コースの開始前又は開始時に、学習する内容に関して学習者が有するコンピテンスのレベルについて、アセスメントを行っているか	4	入学願書および入試面接を通じて、学習者が有する理解力や学習適正について評価をし合否を決定している。	4	
4	10	コース全体を通して、及びコースの修了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	4	卒業制作・卒業試験を行い、各学科の到達目標に対する達成度を知識・技術から総合的に評価し、合格をもって卒業を認定している。	4	

① 課題

コロナの影響により、企業訪問活動数が減少。また校友会活動も合わせて限定的となり、卒業生の状況把握が出来にくい状況。

② 今後の改善方策

オンラインのアンケートフォームを活用し企業に就業する卒業生への評価に協力を求めたい。

③ 特記事項

昨年度より始めた卒業制作展への卒業生出展を今年も実施。引き続き接点強化を進めていく。

5 学生支援		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
5	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか (またはそれはきちんと学生や保護者に周知されているか)	4	学生必携や就職セミナーを通じて、支援体制や利用方法を周知している。また就職部会を定期的に開催し、活動状況の把握、課題への対処などを検討している。	4	
5	2	学生相談に関する体制は整備されているか (相談窓口が設置されているか)	4	クラス担任の他、スクールカウンセラー・ハラスメントへの相談先を設置し、学生へ周知がされている。	4	
5	3	保護者と適切に連携しているか(保護者のニーズを把握しているか)	4	オープンキャンパスでの保護者説明会、進級前に行われる進級時説明会、授業参観や就職保護者会、およびそうした場での個別面談など、連携が図られている。	4	
5	4	社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	就業中の社会人には夜間・週末での個別説明を実施。また年齢差への不安には入学前後で相談やアドバイスを行っている。すでに所有しているパソコンの学内利用についても、受入れ対応を柔軟に行っている。	4	
5	5	卒業生への卒業後教育等の支援体制はあるか	3	本校として卒業後教育は推し進めたいところだが、今年度は学外セミナーの案内は行ったものの、本校が主催する卒業後教育支援は実施出来ていない。	3	芸術、文科系の分野特性として多様なキャリア形成が考えられるため、現実的な範囲またはビジネス創出として考えたい。また実際には教員の個人的な工夫により実施されているとしたら、両校連携など複数名による組織的な仕組みの構築が期待できる(安武) 次年度の新しい取り組みに期待(平井) 難しい課題だと思います。(鳥居)
5	6	図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか	4	図書室・カウンセリング、パソコン利用等については、学生必携に記載の上、学生へ周知している。	4	
5	7	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	修学支援新制度の認定を受けている。また、オープンキャンパスや奨学金説明会にて、奨学金、教育ローン、独自の優秀生優遇制度を周知している。	4	
5	8	学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか)	4	毎年4月に学生健康診断を実施し、必要に応じた指導を行っている。アレルギーに関しては、入試面接や入試後にヒアリングを行い、必要に応じて対応、対処法のアドバイスをを行っている。	4	
5	9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	コロナの影響により数は減ってしまったが、ボランティアや企業コラボレーションなどの学外活動は、随時学生へ案内を行う実施している。今年はデッサンや試験対策を目的に、学内で行われる課外活動が充実した。	4	評価できる(安武) 学生の声が反映されている。御校の文化がそれをさせていると評価する(上野)
5	10	学生の生活環境への支援体制はあるか (学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか)	4	募集要項やホームページでの事例紹介、オープンキャンパスでの物件案内資料配付など、支援を行っている。	4	
5	11	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	高校内で行われる職業別説明会の他、複数の高校にてデザイン・美容に関する提携授業を行っている。	4	
5	12	学習に関する要望、学習に関する要望を取り巻く状況及び通学の障害となる要因(距離や費用等)を理解し、解決に向けた提案を行っているか	4	オープンキャンパスに参加した入学検討者や保護者に対してアンケートを実施し、要望や不安への回答や相談にのっている。また在校生に対しても定期的な面談を通じ、要望の把握や解決への提案を行っている。	4	

① 課題

卒業生を対象とした卒後教育が、学外でのセミナー案内に留まっている。

② 今後の改善方策

次年度は学内実施の特別授業・セミナーを、卒業生にも参加出来る様に案内。またオンライン配信など方法についても多様化を進める。

③ 特記事項

特になし。

6 教育環境		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
6	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか)	4	専修学校設置基準に基づき、教室・実習室は学生が履修を十分に行えるよう割り当てられている。また設備の新規導入・修繕も定期的に行われ環境整備・向上を進めている。	4	
6	2	カリキュラム上必要となる実習に用いる教材・器材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が整っているか。また必要な数の教材及びライセンスが準備されているか	4	学内のパソコンは授業運営に必要な台数が確保されており、かつライセンスも学内担当部署により適切に管理されている。	4	
6	3	教員・講師に対して、学習指導のための教育訓練や教材の利用についての訓練を実施しているか	4	新規契約講師には、毎年3月の講師会にて新規契約講師説明会を行い、指導方法や教材の利用に関する訓練を行っている。	4	
6	4	教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか	4	8月には避難訓練、11月にはシェイクアウト訓練を行っている。またコロナ対策として、換気・蜜の回避・消毒などの安全管理指導も行った。	4	
6	5	防災に対する体制は整備されているか	4	地震防災応急計画を策定し、7月には全クラスの防災委員を集めての消火訓練を実施している。	4	立地上、しっかりと検討されている。クラウド上でのデータ管理をすすめられると良いと思う(上野)
6	6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	インターンシップ実施前の事前指導を実施し、終了後は日誌提出や報告書作成による振り返り学習を行っている。	4	

① 課題

オンラインでの授業実施に当たり、一部教室にてネットワーク環境の補強が必要。

② 今後の改善方策

無線LANアクセスポイントの交換。

③ 特記事項

今年度は数多くのオンライン授業・審査会を実施しており、ネットワーク環境の有効利用・使用機材の追加・運用ノウハウ蓄積などが図られた。

7 学生の受入れ募集			自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント
7	1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	学校案内パンフレット、募集要項、就職内定速報、オフィシャルサイトを通じて情報発信をし適正に行われている。	4	DXの効果…1対1による募集活動が行われたことにさらに可能性を覚えた(安武) オンライン募集への移行が適切(上野)
7	2	履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか	4	インターネットの出願システムを利用。入力項目に学歴・所有資格も含まれている。入力されたデータは印刷してファイリングされ保管している。	4	
7	3	学校案内等には選抜方法など、入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか	4	募集要項・オフィシャルサイトにて、選抜方法・求める人物像・入学資格などが明示されている。	4	
7	4	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4	募集要項・オフィシャルサイトにて、学費・受験料・教材を含む実習費が明示されている。	4	
7	5	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか(評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか)	4	教育成果や就職実績は、オープンキャンパスの保護者説明会資料にて配付し、かつ口頭による説明も行っている。	4	保護者説明会資料が具体性があり評価できる(安武)
7	6	学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか	4	入試にて障がいの申し出があったり、面接中に障がいがあるような受験者を確認した場合は、判定会議にて共有・検証をそている。その後担任となる教職員に情報を共有し、必要な対策をとっている。	4	
7	7	教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか	4	学生には学生必携にて、保護者にはオープンキャンパス保護者説明会にて案内をしている。	4	
7	8	学納金は妥当なものとなっているか	4	収支計画および実績を比較検討し、適切な設定を行っている。	4	
7	9	学校運営責任者の情報や、教員・講師の適格性・経験などの情報を提供しているか	4	オフィシャルサイトにて、理事長・学校長を始め教職員の氏名・担当学科などが公開されている。またシラバスへ、担当教員の實務経験を記載している。	4	
7	10	学習者の満足度に関するフィードバックを入手する手順、並びに彼らの要求、提案及び苦情に対応する手順など、学校生活での支援体制について入学前に伝えているか	4	年に2回の授業アンケート、年に1回の学校満足度調査の実施を、入学時オリエンテーションにて伝えている。また日常的には担任の存在が対応窓口となっている。	4	
7	11	教授資格、教歴及び背景など、学習サービスを担当するファシリテーターのプロフィールについて、オープンキャンパスなどで紹介しているか	4	オープンキャンパスにて、学科の担当教員の経歴やプロフィールを紹介している。	4	
7	12	学習サービスの請求書は、明確、かつ学習者(又は適切な場合には経費支弁者)が何の代金を請求されているのか理解できるよう、必要な全ての詳細を含んでいるか	4	授業料や設備費の他、補助活動費に関しては、その使用目的を詳細に記載している。	4	
7	13	学習者又はスポンサーから要請があった場合には、支払の証明を提供しているか	4	学校指定の振込用紙を利用した場合は銀行の収納印をもって支払い証明となる。ATMやネットバンキングを利用した場合は、手続き時に発行される明細書をもって支払い証明となる。	4	

① 課題

中・長期的な観点での入学者数の確保と、潜在的なニーズの掘り起こし。

② 今後の改善方策

高校の部活動支援や芸術系学科との提携授業強化。小中学生向けのアプローチ(未来授業・インターン受入れ)

③ 特記事項

特になし。

8 教育の内部質保証システム		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
8	1	学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか (定期的に実施しているか)	4	年2回の授業アンケートを行い、内容・指導方法・使用教材などへの評価検証をし、講師会にて担当教員へフィードバックをしている。	4	
8	2	評価の範囲、目標、根拠、基準、方法及びスケジュールを含む、モニタリング及び評価の手段などを考慮し、モニタリング及び評価のプロセスを設計しているか	4	試験方法・時期・基準などを設計し、学生必携にて明示している。また不合格となった場合の追試方法なども規定されている。	4	
8	3	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(学習ニーズの充足や教育内容、カリキュラム、教材を評価しているか)	4	授業アンケート、担当講師との面談を行い、カリキュラムの編成会議に学習ニーズへの内容チェックや教材の評価も行っている。	4	
8	4	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(適格者によるモニタリング及び評価を実施できているか)	4	教務部長による授業の視察・点検は行っており、授業アンケート等で見つかった問題には、その都度担当教員との面談など対応を行っている。	4	
8	5	教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか	4	オンライン授業実施時には、担当講師以外の常勤職員による内容・配信状況の確認を行い、学生へも受講状況に問題が生じていないかのアンケートを実施。改善に活かした。	4	
8	6	学習サービスの提供に関わる教員・講師以外の職員は、自らの職務をやり遂げるために必要なコンピテンス及び適格性を有しているか	4	学生募集や就職指導に関わる教員は、営業や広報に関わる職務経験を持つ者であり、そうした経験を活かして業務を遂行している。	4	
8	7	全ての教員・講師に対して、当該学習分野又はスキル分野に関する必要なコンピテンスを有しているかを評価し、それらの評価結果を記録しているか	4	入社時の面接で、履歴書・職務経歴書・ポートフォリオ等を確認しつつ、コンピテンスの確認を行っている。また年に2回、成果・行動評価を実施し、上長との面談を通じて資質向上のためのフィードバックを行っている。	4	
8	8	専門分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員・講師の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか)	3	今年度はコーチングセミナーや美容業界の展望を学ぶセミナーへの参加を行い、指導力の向上を図った。しかしコロナの影響により、セミナー自体の実施が減り研修機会は少なくなっている。	3.2	計画自体があるため実質的には4と思われる(安武) コロナ禍を考えると充分かと思われた(上野)
8	9	教員・講師に対して、割り当てられた職務及び責任、学習サービスの評価結果、本人の専門能力開発のニーズに対する見解を考慮に入れて、専門能力開発の計画を作成しているか	3	定期的な面談を通じて、本人の職務や責任に関する評価を行い、都度の研修・セミナーへの参加は行っているが、年間計画としての能力開発計画はまとめられていない。	3	自己点検～内部質保証の本質として本人の「開発」に関するPDCAサイクルの構築が必要と思われる。組織として深化+探索の両面に向かって向上していく上で「研修」等のメタ視点を得る機会が重要になるように感じた。特にRAD/B校におかれては「次の時代への種まき」が必要なのでは?と感じた(安武) 計画作りが必要、職員の補充が必要(平井)
8	10	職業関連分野における業界等との連携において優れた教員(専任・非常勤含め)の提供先を確保するなどの取組が行われているか	4	ゲーム業界・美容業界に関わる業界団体への加盟、首都圏の企業開拓を通じて、現場のスペシャリストを教員として招いている。	4	例年同様に評価できる(安武) 努力していることが伺われま ず(鳥居)
8	11	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	就業規則内の機密保護管理規程に則り、個人情報の保護・管理を行っている。	4	
8	12	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	専修学校設置基準、美容師養成施設の関連法規等を遵守し、適正な学校運営が行われている。	4	

8	13	アセスメント結果のレビュー等が適切に行えるよう、文書管理規程や文書管理リスト(ファイル管理簿)が整備されているか	4	昨年度に学内文書の管理規程および文書管理台帳を作成し、これに則り運用を行っている。	4	
8	14	自己点検・評価結果を公開しているか(報告では、学習サービスの目的を踏まえ、明確に結論及び根拠を説明しているか)	4	自己点検および学校関係者評価の目的と結論、根拠をまとめた報告書をオフィシャルサイトにて公開している。	4	
8	15	代講が必要な場合、適格なファシリテーターが対応できるように手配し、当該ファシリテーターに学習サービスの準備及び提供について指導しているか	4	代講は行っておらず、補講によって対応をしている。また健康状態等の事情による担当講師変更が生じた場合にも対応出来るよう、コマシラバスによる授業計画・使用教材等は事前に共有されている。	4	
8	16	ファシリテーター及び学習者に対して、印刷教材・電子教材の複写及び利用に関する規則について情報提供しているか	4	パソコン研修にて、教材の複写や利用に関する解説を行っている。	4	
8	17	教員・講師は、経験を有し、日本国内において認知されている教授資格を持っている、又は認知されている講師養成訓練を受けているか	4	専修学校設置基準や美容師養成施設の関連法規に規定されている講師を採用し、授業が行われている。	4	
8	18	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	4	コロナへの対応として、マスク着用・学内消毒・蜜の回避などのガイドラインを作成し教員・学生へ周知している。また教務部長による授業視察も前期・後期で行い、改善に向けた面談も実施している。	4	

① 課題

教職員の能力向上に資する年間の研修計画が未作成であること。

② 今後の改善方策

能力向上のための研修計画を年度末までに作成。

③ 特記事項

特になし。

9 財務		自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント	
9	1	財務について会計監査が適正に行われているか	4	第三者である公認会計士・税理士による会計監査が行われている。	4	
9	2	財務情報公開の体制整備はできているか	4	決算後速やかに財務諸表を公式WEBサイト上に公開している。	4	
9	3	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	コロナによる地元進学志向への切り替わりもあり、次年度の入学者、特に3年制学科への入学者が大幅に増加した。そのため今後3年間の財務基盤は安定している。資金面、収入支出面、銀行との信頼関係も引き続き良い。長期的な安定のための対策も今年度から本格的に着手し始めた。	4	RAD/Bにおける学科構成が評価できる(安武) 非常に健全な財務で素晴らしい(上野) 取り組みにより生徒数を増やせている。少子化、コロナ後へまた方針必要に(平井) 新入生にとって満足いく教育内容としてほしい(鳥居)
9	4	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	予算・収支計画は有識者の助言のもと適切に作成され、予算と実績の差はほぼ無い。健全経営を継続している。	4	

① 課題

建物設備の老朽化に伴う支出が増加傾向。長期的な入学者の確保。

② 今後の改善方策

新たな教育商品の開発、商圈(営業エリア)の拡大。

③ 特記事項

特になし。

10 社会貢献・地域貢献			自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント
10	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	地域のショッピングモールでの壁面アート施行、地域の高校に対する広報活動の支援など、学校の教育資源や設備を活用した貢献活動を行っている。	4	5-5(卒業生支援)と関連付けた取り組みが実現できた場合は、この項目でもさらに評価できると思われる(安武)
10	2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	企業・団体からの要請に応じて都度学生へボランティア活動を紹介・支援している。今年はコロナの影響により、予定されていた活動が縮小を余儀なくされた年となった。	4	
10	3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	地域の小中学生を対象とした職業体験、芸術科を持つ高校の専攻授業指導の受託等を実施している。	4	

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

小中学生を対象としたキャリア教育支援は次年度大いに取り組んでいく。

11 国際交流(必要に応じて)			自己点検 自己評価	自己評価の理由	学校関係者 評価	コメント
11	1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	—	留学生の受け入れ等を行っていない	—	
11	2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	—	留学生の受け入れ等を行っていない	—	
11	3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	—	留学生の受け入れ等を行っていない	—	
11	4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか (該当する場合には、広く知られている国内又は国際的(測定)尺度を参照しているか)	4	海外のデザイン系大学との共同授業による、デザインコンペティションを実施予定であったが、コロナにより中止された。	3.8	今年度の募集、就職(学習成果)が向上したことを関連付けて推察すると「海外授業」に関する労力対成果について何らかの「選択と集中」を行うことも可能性として考えられるのではないかと感じた(安武) 中止ということで評価できないと感じた(上野) 代替案、海外授業(2022年)の選択式(平井)

① 課題

コロナによる海外授業の代替研修計画。

② 今後の改善方策

2021年度の海外授業は、海外渡航・海外とのリモート研修も含めた国内実施の双方で検討している。

③ 特記事項

特になし。